

「アメリカ大統領の信仰と政治」

著者：栗林輝夫：関西学院大学教授

初代：ジョージ・ワシントン

「アメリカ人ほど神の見えざる手が日々働くことを尊ぶ国民はない。」－1789年、大統領就任式の演説で

第3代：トマス・ジェファソン

「この世を統治する永遠の力が、われらの議会を導かれんことを」－1801年、大統領就任式の演説で

第16代：アブラハム・リンカーン

「全能の神と、おそらくはその神に選ばれた国民とに、つつましく仕えることができるなら、私にはこれに勝る喜びはない。」－1861年、ニュージャージー州の議員たちを前にして

第34代：ドワイト・アイゼンハワー

「信仰は、人間が指揮できる最強部隊である。」－1954年8月、世界教会協議会第2回総会で演説して

第35代：ジョン・F・ケネディ

「私はカトリックの大統領候補ではありません。民主党の大統領候補であって、たまたまカトリックだったにすぎません。」－1960年9月、大統領選挙遊説中、ヒューストンのプロテスタント牧師の会合で

第39代：ジミー・カーター

「私の信仰を理解しなければ、私も私の政治哲学も理解できないと思う。」－1983年12月、大統領時代を回顧して

- 誠実さを絵に描いたようなストレートのクリスチャン。南部福音派。
- 内面の深い信仰はプライベートにとどめ、政治とは直結させなかった。人権平和外交の一方で、内政では政教分離を厳密に適用。
- 朝食祈祷会の席上、アメリカ国民はもっと謙遜になる必要がある、世界の誰からも見上げられる「丘の上の街」<sup>1</sup>になるには今のように傲慢であってはならない、と説教。

---

<sup>1</sup> 「あなたがたは世界の光です。山の上にある街は隠れる事ができません」(マタイによる福音書 5:14)

- 危機の解決を国民に確信させて慰めるよりよりも、それに挑戦して悔い改めを求めるタイプの大統領を演じた。(国家の祭司というより、預言者のように)

第40代：ロナルド・レーガン「皆さんと一緒に働けば、必ずアメリカを丘の上の輝く街にできます。－1983年1月、全国宗教放送人教会で演説して

- 8年の任期中、ほとんど教会に行かず、礼拝出席回数は歴代のワーストに近い。
- 84年大統領選挙は宗教戦争
  - プロテスタント保守派：レーガン vs. プロテスタント進歩派、バプテスト、メソジスト：モンデール
- 福音派と宗教右派に接近。アメリカの道德復興のためには教会の働きが欠かせないと繰り返し訴えた。
- 「私は政治生命のすべてをかけて、国民の皆さんに、丘の上に輝く街の夢を語ってきました。」－離任演説で
- 原罪を説くのではなく、意気消沈した心に活力を取り戻す元気澁刺なメッセージ。

第42代：ビル・クリントン

「聖書が教えるのは、人が罪を犯すということです。実際、誰もが罪を犯し続けます」－1993年、新聞記者のインタビューに答えて

- 立派な人格者と言えないかもしれないが、日曜礼拝は欠かさず、聖書にも精通。
- 少年期の複雑な家庭環境が複雑な性格を形成した？教会に熱心に通う。
- 宗教レトリックを頻繁に演説に使用
  - 就任式：「善を行うのに飽いてはいけません。失望せずにいれば、時期がきて、刈り取ることになります。」(ガラテヤ人への手紙 6:9)
  - 不倫騒動後の公式な謝罪「『神が私を訪ねて心を探り、試し、悩める思いを知り』(\*\*\*)、...永遠の生命へと導き出してくれるよう一緒に祈ってほしい」

第43代：ジョージ・W・ブッシュ

「私が大統領執務室にいて酒場にはいない理由はただひとつ。私は信仰を得て神を見出しました。私が今あるのは祈りの力のおかげです。」－2002年9月、ホワイトハウスにおける各界宗教者との会合で

- 40代前半まではぱっとしない生活。アルコール依存。
- 1988年、父親の選挙を手伝い、この前後に福音派の熱心なキリスト教信者になる。
- 選挙キャンペーンでは、自分を放蕩息子の喩え<sup>2</sup>を持ち出して自分の回心を語る。
- 単純。自分を根性のプレーヤーと称する

---

<sup>2</sup> ルカによる福音書 15:11-24

#### 第 44 代：バラク・オバマ

「黒人のアメリカも、白人のアメリカも、ラティノのアメリカも、アジア人のアメリカもありません。あるのはアメリカ合衆国です」－2004年7月、ボストン民主党大会の基調演説で

- 父親はケニアのイスラム文化の中で育ち、本人はジャカルタのイスラム系私立学校に通う。
  - 隠れモスリムとの執拗な攻撃
- 選挙戦では自分の信仰を積極的に語る。
- 黒人神学の支持者であるシカゴの母教会ライト牧師との決別